

《報道資料》 ページ 1

パテック フィリップ ジュネーブ
2014年11月

パテック フィリップ創業175周年
ジュネーブのマニュファクチュール、パテック フィリップの創業記念イベント (続編)

パテック フィリップ・ミュージアムにおいて2014年11月15日から2015年4月11日まで
創業175周年記念タイムピースを特別展示

パテック フィリップ創業175周年記念イベントは、これまでに熱狂的な支持と成功を収めている。大々的な記念イベントは、今年5月1日、スターン家においてスタートし、パテック フィリップ・ウェブサイトwww.patek.comで一般に公開された。続いてジュネーブ祭りでは、パテック フィリップ後援の華麗な大花火スペクタクルが催され、ジュネーブ最後の家族経営の時計マニュファクチュール、パテック フィリップの、カルバンの都ジュネーブとの絆があらためて示された。記念イベントは、10月13～20日にマニュファクチュールで開催された目も眩むような記念式典でクライマックスに達した。式典には世界中から集まった3,600人のジャーナリスト、ディストリビューター、コレクター、時計愛好家が参列した。式典のスポットライトは、限定製作の創業175周年記念タイムピース・コレクションである。コレクションはすべて式典の終了を待つことなく完売となった。

次の記念イベントは、2014年11月15日から2015年4月11日まで継続する。ティエリー・スターン社長とフィリップ・スターン名誉会長が主催するパテック フィリップ記念タイムピースのパテック フィリップ・ミュージアム (ジュネーブ) における特別展示がそれである。希少で熱狂的に追い求められるこれらの記念タイムピースの精緻な仕上がり、デザイン、高度な機能を、すべての一般市民とタイムピース愛好家が鑑賞できる機会を得られることになったのである。

60点におよぶ特別製作のユニークな創業175周年記念タイムピース

この特別展示は、175周年記念タイムピースに加え、創業150周年と、それ以来の記憶すべき出来事を記念する他のモデルにも焦点を当てる。

- ・ 1989年：パテック フィリップ創業150周年記念タイムピース
- ・ 1997年：プラン・レ・ワット新本社工場落成記念タイムピース
- ・ 2000年：新しいミレニアム到来記念タイムピース
- ・ 2006年：パテック フィリップのジュネーブ・ロヌ通り歴史的本社とジュネーブ・サロン改装オープン記念タイムピース
- ・ 2014年：パテック フィリップ創業175周年記念タイムピース
- ・ パテック フィリップ創業175周年を記念して創作され、パテック フィリップ発祥の地ジュネーブの誇る希少なハンドクラフトに捧げられたタイムピース

パテック フィリップ・ミュージアムではまた、新しいインタラクティブな展示を通じて、パテック フィリップの歴史と技術的発展への理解をさらに深めることができる。世界初の《3Dイマーシブ・エクスペリエンス》は、ムーブメント (創業175周年記念タイムピースのマスターピース、グランドマスター・チャイムに搭載されたキャリバーGS AL 36-750 QIS FUS IRM) の内部に文字通り《潜入》し、この驚異的な記念タイムピースが持つ20の複雑機能のうちの4つの機能をリアルタイムの3D映像によって見る事ができる。



《報道資料》 ページ 2

パテック フィリップ・ミュージアムにおけるこの特別展示は、ジュネーブのマニュファクチュール、パテック フィリップの著名な創業175周年記念タイムピース・コレクション、およびそれに先立つ他の伝説的なタイムピースを目の当たりにするまたとない機会ということができよう。

パテック フィリップ・ミュージアム

Patek Philippe Museum

Rue des vieux-grenadiers 7

CH-1205 Geneva, Switzerland

開館時間：

毎週火曜日～金曜日 午後2時～午後6時

土曜日 午前10時～午後6時

日曜日、月曜日、祝祭日は閉館

パテック フィリップ創業175周年記念イベント（2014年5月～2015年5月）

1839年5月1日、アントワーヌ・ノルベール・ド・パテックがジュネーブに時計マニュファクチュールを創立した。ジャン・アドリアン・フィリップを共同経営者として迎え入れてからしばらく後の1851年、商号は《パテック、フィリップ社》と改められた。パテック フィリップは、創業以来中断することなく、世界最高の時計を製作するマニュファクチュールの中で主導的な地位を占めてきた。パテック フィリップは、常に外部から一切の干渉を受けることなく、独立と自由を享受しており、1932年以来、ジュネーブ生粋のスターン家によって所有されている。このユニークな地位と独立性により、パテック フィリップは高級時計の頂点に位置し、常に国際時計オークションの首位を占めるブランドとなっているのである。

2014年8月9日：パテック フィリップ、ジュネーブの夜空に大花火スペクタクルを展開

一般向けの創業175周年記念イベントは2014年8月9日、ジュネーブ祭りと共にスタートした。パテック フィリップが後援するジュネーブ祭りの大花火スペクタクル「人間と時」である。2014年はジュネーブのスイス連邦加入200周年にも当たっており、比類のないスペクタクルを演出するまたとない機会となったわけである。世界3大花火大会の一つに数えられるジュネーブ大花火スペクタクルは、数々の驚異的な特殊効果を駆使してジュネーブのレマン湖岸で行われ、50万人の観衆を集めた。

2014年10月13日～20日：プラン・レ・ワット本社にて創業175周年記念式典を挙行

記念式典の会場としては、当然のことながら、パテック フィリップの偉大なる業績が日々達成されている、プラン・レ・ワット本社が選ばれた。

1996年にジュネーブ郊外に新しく建設されたパテック フィリップのプラン・レ・ワット本社は、9週間にわたり見違えるほどに様変わりした。本社の主要な棟々を隔てる空間は、舞台、ファサード全面にわたるビデオ・プロジェクション、レストランと展示ゾーンを含む2階建てのレセプション・ホールからなる巨大でエレガントな式典会場に変身した。



《報道資料》 ページ 3

世界中のメディア、重要顧客、ディストリビューター、取引先からなる3,600人にのぼる招待客は、6日間にわたる壮大な記念式典に参加した。招待客たちはフィリップ・スターン名誉会長と子息のティエリー・スターン社長に迎えられた。またパテック フィリップの歴史上重要な出来事と革新的なタイムピースを描いた巨大な3D映像のマッピングショーが上演された。クライマックスは幅約20メートルにおよぶ舞台で行われた音楽と舞踏によるスペクタクルであった。

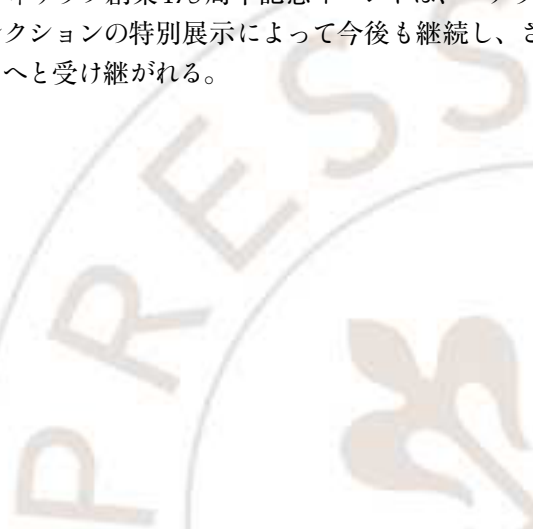
続いて招待客たちに記念タイムピース・コレクションが初めて紹介された。4つの記念タイムピース・コレクションは、これらを創作し、その隅々までを知り尽くしたエンジニアとデザイナーによる解説が行われた。創業175周年記念タイムピースのマスターピース、グランドマスター・チャイムに搭載された至高のムーブメント、キャリバーGS AL 36-750 QIS FUS IRMの内部に文字通り《潜入》できる、著名なハイテク技術による《3Dイマーシブ・エクスペリエンス》の前に招待客たちは列をなした。

本社建物に隣接する、十八世紀に建造されたシャトー・ブランも記念式典会場となった。シャトーの最上階に至る急な階段を登った招待客たちは、創業175周年を記念して創作された、希少なハンドクラフトを体現する最もエクスクルーシブなタイムピース・コレクションの魅惑的な展示によって迎えられた。これらのタイムピースは、彫金、さまざまな七宝技術（細密画、クロワゾネ、シャンルヴェ、フランケ、プリカジュール、グリザイユ）、ギョシェ装飾、木象嵌、ジュム・セティングなど、一時期消滅の危機にさらされていた希少な工芸技術の頂点を示す作品である。パテック フィリップの長年にわたる保護育成により、これらの工芸技術は消滅を免れ、今日新たな開花を見せている。

もちろん2,000人をこえるマニュファクチュール パテック フィリップの社員たちも式典に参加する機会を与えられ、スイスで最も尊敬されている企業であるパテック フィリップに働く喜びと誇りとをいま一度、新たにしたのであった。

この大規模な記念式典を空前の成功に導くため、タイムピース製作においてと同様、パテック フィリップがいかなる努力も惜しまなかったことは想像に難くない。式典会場には広さ2,037平方メートルにおよぶ仮設構造物が特別に構築された。構造物は、組立てに47日、分解に23日を要した。カクテルパーティーと3D映像のマッピングショーの行われたスペースは高さ25メートルにおよんだ。一方、ビュッフェ、記念タイムピースの展示、《3Dイマーシブ・エクスペリエンス》に当てられたレセプション・ホールの高さは18メートルである。記念式典のために投入された膨大な努力が6日間にわたる式典の空前の成功によって報われたことはいうまでもない。

ティエリー・スターン社長から発表されたごとく、パテック フィリップ創業175周年記念イベントは、パテック フィリップ・ミュージアムと本社における記念タイムピース・コレクションの特別展示によって今後も継続し、さらに2039年のパテック フィリップ創業200周年への準備プロジェクトへと受け継がれる。





《報道資料》 ページ 4

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

大塚和泉

電 話：03-5209-8018 (直通)

F A X：03-3256-7558

izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

《パテック フィリップ ホームページ》

<http://www.patek.com>

